

令和6年度 第1回 第一中学校区学校運営協議会 議事録

令和6年6月24日(月)18:00から令和6年度 第1回 第一中学校区学校運営協議会を第一中学校
学習室4にて開催した。

出席者(7人)

中村 光 委員
中川 修一 委員
兵頭 奈津子 委員
倉橋 忠男 委員
高木 祐樹 委員
服部 建 委員
石井 英真 委員

説明のために出席した学校の教職員の職・氏名

高槻市立第一中学校
校長 安田 信彦
教頭 水流 恵一
首席 渡邊 周平
研究主任 小川 典子
高槻市立高槻小学校
校長 八尾 洋美
教頭 星野 真吾
首席 稲垣 勇人
教務主任 宮下 大介
研究主任 松浦 萌
高槻市立桃園小学校
校長 柴原 雅彦
教頭 中村 吉博
首席 藤原 巧
研究主任 小崎 俊

議事日程

1. (承認第1号) 会長, 副会長の選出について
2. (報告第1号) 地域学校協働活動推進員の委嘱について
3. (議案第1号) 第一中学校区グランドデザインについて
4. (説明) 今後の動きについて

(18時開会)

第一中学校 首席 渡邊 周平

はじめに 本会議につきましては, 出席議員は7名です。

事前に西原委員から欠席の連絡を受けております。

委員の過半数以上の出席を終えていますので, 会が成立していますことを申し添えます。

なお, 教育委員会事務局及び学校関係者が視察のために参加していますのでご了承ください。

それでは開会に先立ちまして, 3校を代表して第一中学校安田校長よりご挨拶申し上げます。

第一中学校 校長 安田 信彦

本日は, お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。

また, 平素は本校区の教育活動に対し, ご理解やご指導を賜り, 重ねてお礼を申し上げます。

さて, 本日は, 4月の教育委員会議で任命された第一中学校区の学校運営協議会委員のみなさまにお集まりいただき, 第1回の運営協議会を開催いたします。

この会のねらいは, 各中学校区がめざす子ども像を学校・家庭・地域が協働して実現させることでございます。

そのためのみなさまの任務は, このあと説明する中学校区のグランドデザインについて, ご意見やご質問をいただき, 合議によって承認をしていただくこと, そして, その実現に必要な支援に関して協議し, 具体的な活動につなげていただくことでございます。

未来を担う子どもを社会の一員にしていくために, 校区の大人総がかりで教育を行うとともに, 子どもの「学び」を軸に教職員, 保護者, 地域住民がつながり, 大人も「学び」を深めてまいりたいと考えております。

この場の活発な議論が, 学校教育の充実や, 子どもたちの成長につながると考えておりますので, 本日の会議では, 今年度のグランドデザインや重点取組に対し, 多くの意見をいただき, ご承認を賜りますようお願い申し上げます。

第一中学校 首席 渡邊 周平

本日が第1回目ですので, 次第1の協議会の会長, 副会長の選出をしていただきます。

参考資料に高槻市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則をご覧ください。

3ページ目第12条をご覧ください。

第12条第1項に指定されている通り会長につきましては設置中学校区の校長の合議により指名することとなっています。

それでは校区校長を代表して衆原校長先生, 会長の指名をお願いいたします。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

服部教授を会長に指名させていただきます。よろしくお願いします。

服部 建 会長

去年も会長をしていたのですが、今年もということでよろしくお願いします。

学校現場は、グローバル化や ICT・情報化、子どもの安全等新しい課題がたくさんある中で、日々努力されていると思います。

学校運営協議会が、学校教育の様々な活動の支援ができるような組織となるようにしたいと思っています。

新しい3人の委員も加わり、全8名で頑張っていきたいと思います。

委員の皆さま、学校関係者の皆さまよろしくお願いします。

第一中学校 首席 渡邊 周平

服部会長ありがとうございました。

続きまして副会長の選出ですが、同規則第12条第1項に規定されていますとおり服部会長にご指名いただきたいと存じます。

服部会長、よろしくお願いいたします。

服部 建 会長

副会長についても、昨年に引き続き今年も倉橋さんをお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします

倉橋 忠男 委員

ご指名いただきました倉橋です。

昨年度、一中の総合的な学習の時間の参観に行かしていただきました。

授業のまとめの場面で、「この前会議で高校の先生からこんな話聞いたんや」という話を授業者が生徒たちにされてました。

最後まで聞いていたら、昨年度の運営協議会で、自分が喋ったことだと気が付きました。

この場で発言したことが、先生方の学校教育活動の何かヒントになればと思っておりますので、今年も1年間よろしくお願いします。

第一中学校 首席 渡邊 周平

ありがとうございました。それではこれより議事進行につきましては服部会長をお願いいたします

服部 建 会長

それでは議事進行を私の方から進めていきます。

要綱に従って、この会議そのものは公開対象です。

また、議事録についてもホームページで公開するということになっておりますので、ご了承ください。

傍聴も許可しております。傍聴の希望者おられますか。

高槻小学校 首席 稲垣 勇人

傍聴の希望者はおられませんでした。

服部 建 会長

わかりました。

早速、次第2の「地域学校協働活動推進員の委嘱について」、学校からの報告になります。

説明をお願いします。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

参考資料3「高槻市地域学校協働活動推進の取得等に関する要綱」をご覧ください。

第2条をご覧ください。

推進員につきましては、中学校区校長の合議により教育委員会に推薦することとなっています。

今年度は高木さんを教育委員会に推薦をし、承認をいただいていることをご報告いたします。

なお、推進員の活動内容につきましては、要綱の第5条に定められていますので、ご確認ください。

服部 建 会長

高木推進員、一言ご挨拶をお願いいたします。

高木 祐樹 委員

改めまして推進員のご指名をいただきました高木です。

昨年度も推進としてご指名いただきましたけれども、昨年度は推進員の立ち位置だったり、動き方のイメージがつきにくかったのですが、他の中学校区の推進員と意見交換をする場の設定があり、そこで他の校区の活動もお聞きして、昨年度後半からは、地域の連携調整や学校のニーズ把握を行いました。

今年度はスタートの時点から昨年度のいろいろなつながりを活用し、ニーズにあった提案を提供できるよう用意をさせていただいています。

今後も先生方にとっても、子どもたちにとってもプラスになれるよう進めていきたいと思っています。

服部 建 会長

それでは次第3「第一中学校区グランドデザインについて」についてです。

学校から説明をお願いいたします

第一中学校 校長 安田 信彦

スライドを使って説明をいたします。

令和6年度の第一中学校区の学校経営方針についてです。

まず、中学校区の目指す子ども像です。

これは2030年以降の日本の国の状況等を踏まえて、子どもたちにつけたい力として、令和4年度に再設定をいたしました。

一人でできる自力を鍛え、周りの人と協力や助け合う関係を築き、学級・学校・社会の課題を解決していく子どもと設定しております。

「自力」「協力や助け合い」「課題を解決していく」を「子どもたちにつけたい12の資質・能力」とし、円で整理をさせていただきました。

青い部分が「自力」それから緑の部分が「協力と助け合う共助力」それから赤い部分が「課題解決力」となっています。

それぞれについて、さらに4つの力に細分化しており、校区としましては合計12の資質・能力を小学校、中学校の9年間で子どもたちにつけていきたいと考えております。

次に中期的な経営ビジョンです。

令和5年から令和7年までの3年間で、どのような学校をつくっていききたいのかということですが、1つ目は子どもたちに対することで、子どもたち一人一人が、教科の内容や自分の生き方を深く追求し、社会で普く通じる力を身につけるとしています。

テストや入試のための知識ではなくて、もっと先の社会に出た時に生きて働くような知識、社会で普く通じる力をつけていきたいと考えています。

もう一つは、その力をつけるための教職員に対するビジョンです。

教職員一人一人の専門性を高めるとともに、学習する教職員集団を作り、先取的かつ模範可能な授業を研究するという事で、小学校・中学校教職員がお互いに学び合って、授業力を高めていくということを2つ目のビジョンに掲げています。

次に今年度の教育目標です。3点挙げています。

1つ目は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの資質・能力をバランスよく育むこと。

2つ目は、共生社会をつくる一員となる豊かな心と健やか体を養うこと。

3つ目は、学校・地域・社会の課題を解決することができる力を育むこと。

この3つのことを今年度の教育目標としていきます。

ここからは、今年度の重点取組を小学校、中学校に分けて説明していききたいと思います。

先ほどの3つの力、「自力」「協力・共助力」「課題解決力」にわけて説明いたします。

まず、中学校の「自力」を育む取組です。

一つは、思考力・判断力・表現力等を育成し、生きた知識を獲得する授業づくりとしています。

知識・技能と思考力・判断力・表現力と学び向かう力、3つをバランスよくと言いましたが、今はバランスが悪いからこのような設定をしています。

そのバランスの悪さは何かという、思考力・判断力・表現力の部分で、自分が考えたり、判断したり、表現したりすることに弱さがあると感じていますので、この部分を軸に生きた知識、将来に使える知識を獲得していくような授業をつくっていききたいと思います。

2つ目は、一人一人の自立や社会参加を支援する特別の教育課程の編成、実施。

3つ目は、不登校児童生徒の社会的な自立を支援する校内適応指導教室の整備です。

2つ目、3つ目については、ゆっくり学ぶ子たちに学力を保证していきたいということです。

次に特別支援教育の目標と取組です。

一人一人の障がいの正しく把握し、内なる可能性を最大限に引き出し、伸ばすように生徒の自尊感情を育てるとか、社会生活の自立を目指して一人でできる自力を子どもたちに鍛えていきます。

支援学級は最大8人の生徒に対して1人の教員という学級設置の仕方をしていきますので、授業も8人までの少人数でグループ編成をして、特別な教育課程を編成して授業を行っています。

支援学級の子どもたちにも知識及び技能, 思考力・判断力・表現力, 学びに向かう, 3つの資質・能力をしっかりと育むような授業をやっていきたいと思います。

校内適応指導教室の目標と取組です。

校内適応指導教室は不登校の子どもたちが学ぶ場となっています。

教室にはなかなか行けないけれども, そういった子どもたちに対しての学習する場として, 取組を行っています。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

「自力」では, 「わかった・できた・もっとやりたい」と思える授業づくり, 自ら学び続ける意欲のある子どもを育成する, を掲げています。

「わかった・できた・もっとやりたい」と思える授業づくりについて, 第一中学校区は, 教育センターから学習指導拠点校区の指定を受けています。

小学校では, 授業改善を繰り返すことで, 質の高い授業ができるように研究を進めているところです。

また教育センター指導主事に来ていただいて, 質の高い授業ができるようにご指導いただいています。

子どもにとって良い授業は, 教師にとって良い授業であろうということを念頭に, 学校全体で良い授業を目指すことを目標にしています。

自分の思いを相手意識を持って伝える授業づくり, 場面づくりや日常に即した課題づくりの工夫については, 繰り返し, 教員で話をして, どのように充実させていくのかを検討しているところです。

個別の指導計画, 支援計画による個に応じた指導では, それぞれの児童の学びの進度に合わせて指導を進めています。

そして, 不登校児童への学習及び社会的自立に向けた支援については, 学びに課題を抱えた児童が安心して教育を受けられる新しい居場所の確保, 適応指導教室を活用した不登校等支援員, 教員など身近な大人や子ども同士の活動を通して, 学習を行い, 社会的自立の支援を行っています。

第一中学校 校長 安田 信彦

次に重点取組2つ目「協力と共助力」に係る中学の取組です。

「協力と共助力」を育成するカリキュラムの研究, 主に道徳・特別活動の研究を行います。

それから2つ目は民主主義の担い手を育む生徒会活動に重点的に取り組みます。

3つ目は「自他の安全を守る力」を育成する安全教育の推進です。

まず1つ目の学級活動, 特別活動のカリキュラムというところですが, ここは学校全体のウェルビーイングを自ら実現できる生徒の育成というのをあげています。

自分が幸せだけでなく, そこにいるみんなが幸せになるというウェルビーイングを, 子どもたちが実践できる力をつけていきたいと思います。

具体的な取組としては, 自ら問いを立てて, 課題解決できる学級活動の充実, 学級活動の中で話し合い活動を充実させていきたいと思っています。

評価シートのポートフォリオ化で生徒の実態を可視化する教材開発として, 子どもたちの普段の様子も含めて, 特別活動でどんな力がどのようについてきているかを教員全体で見していきたいと思っています。

2つ目は生徒会活動です。

生徒一人一人が生徒会の一員であることを自覚し, より良い学校生活について行動しようとする態度や実践力を育成したいと考えております。

主な取組としては、学校評議会を定期的に開催することです。

学校評議会は、生徒会の代表と学校の代表である校長が子どもと意見交換をする場となります。

また、一中だよりという生徒会新聞を定期的に発行したりとか、生徒発案の企画を実施したりとか、生徒憲章をつくったり、それに基づいて決まりを見直したりとか組織を見直したりということにも取り組んでまいります。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

小学校の「協力と共助力」です。

「人や社会とつながり、助け合いの心を育む教育課程の編成と実施」、「自他の安全を守る力を育成する安全教育の推進」を目標に掲げています。

「人や社会とつながり、助け合いの心を育む」については、各教科の学習で、地域の方との交流を通して地域の方々の思いに触れ、自分たちが住む地域に愛着を持つことができる機会を、推進員の方にもご協力をいただきながら進めています。特に小学校同士で総合的な学習の時間や、社会、国語などで地域の学習をする際に、地域の方にも学校に足を運んでいただいて、そこで学びを深めていきたいと考えております。

それから小小の連携ですが、高槻小学校と桃園小学校がともに学び合うことで、良好な子ども同士のつながりを深めています。

昨年度は、6年生の平和学習や3年生の地域学習などを通して、同じ学習をする際にそれぞれの学校の児童同士、教師同士で話し合いをしながら、両校の子どもたちのつながりを深めていきました。

安全教育では、「たかつき安全NOTE」を活用した安全教育の実施や、集団下校、保護者引き渡し訓練の実施を進めているところです。

また、年間を通して、地震・火災・不審者・洪水等の避難訓練を行い、あわせて教員の救命救急、アレルギー対応、不審者・地震・火災等の実地訓練も実施しております。

第一中学校 校長 安田 信彦

次に課題解決力に関する中学校の取組になります。

課題解決力については、その力を育成するカリキュラムということで、総合的な学習の時間について研究を進めていきたいと考えております。

総合的な学習の時間の目標と探究のテーマです。

目標については、「問いを立てる基礎を身につける」ということ、それから「議論の方法を学ぶ」ということ、それから「まとめ等の構成する力を身につける」ということです。

探究のテーマですけれども、昨年と同様1年生は、「探求スキルと多文化共生」、2年生は「キャリア教育と国づくりそれから地域学習」3年生は「都市計画と進路」となります。

総合的な学習の時間の取組ですが、今年度の特色ある取組として経済産業省の補助金の制度を利用した取組を行っています。

クエストエデュケーションというプログラムなのですが、「探究スキル」として、ソーシャルチェンジ、ロールモデルというプランを実施します。

キャリア教育の中では、ザ・ビジョンというプログラム、問いづくりのところで、クエスチョンエックスというプログラム、都市計画のところでも同じようにクエスチョンエックス、ソーシャルチェンジ、マイストーリーというプログラムを使っています。

去年と同じテーマですが、その中にこういったものを取り入れて、この教材をどんなシーンで使うと学習効果があ

るのかということを研究しています。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

小学校の「課題解決力」です。

「自主的に活動し、課題解決力を育む児童会活動」では、高槻小学校、桃園小学校ともに児童会活動に活発に取り組んでいます。

月1回のあいさつ運動では、桃園小学校は着ぐるみと一緒にあいさつ運動を進めています。高槻小学校も、のぼりを持って、毎月校門前であいさつ運動を行っています。

児童集会を充実させるために、月に1回、各委員会からの活動報告、各学年からの活動報告を行っています。委員会活動の充実をはかるために、学校の在り方を考える良い機会であろうと、子どもたちが自分たちで、自分たちの学校を良くしようと、前例にとらわれない活動を考えていこうとしています。

第一中学校 校長 安田 信彦

最後は重点取組として、大人の協働に関わる取組を設定をしています。

まず中学校です。

教職員が主体的に研究できる時間の確保ということと教職員同士が学び合うシステムの確立ということ、保護者・地域とともに子どもを育てる学校づくりという3つを掲げております。

授業研究部の目標と取組例として、学習指導要領に示されている3つの資質・能力がバランスよく育まれる質の高い事業を創造するということを目指し、具体的な取組として5点あげております。

月2回の係会議の実施、金曜日の1時間目に研究部の会議を行います。

また、月1回の教科会議を実施しています。

それから授業アンケートの実施を年2回、全国学力・学習状況調査、チャレンジテストの結果分析、他にはカリキュラム室、授業研究室の整備ということを行います。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

「大人の協働」では、教職員が主体的に研究できる授業の確保、教職員同士で学び合うシステムの確立、保護者・地域とともに子どもを育てる学校づくりという目標を掲げております。

これは一中校区で同じような形で進めていますが、月に1回から2回、研究班での研究の時間を確保しています。

高槻小学校と桃園小学校では、同じ曜日、時間帯に研究班の時間を設定することで、ともに研究を進めていく形を考えております。

また、年に3回の生活アンケートの実施や、全国学力・学習状況調査の分析も進めています。

授業研究部の取組では、先輩授業の実施、校内研究授業を年に5～6回、市教研の研究授業では、高槻小学校が5年生の家庭科、桃園小学校が6年生の算数、1年生の生活科で研究授業を行い、三島地区教育課程説明会の授業の方も進めてまいります。

授業参観ウィークは、年に2回、先生同士で授業を見合うという形で実施する予定です。

保護者・地域とともに子どもを育てる学校づくりのために、土曜参観を活用して保護者に学校の取組、学校運営協議会の周知をする意味で、桃園小学校は4月、高槻小学校は6月に説明会を行っています。

小小の連携では、地域学校協働活動推進者を活用した取組を進めるため、推進員や保護者・地域のご協力を

いただきながら、どのような形で小中の連携が進めていけるかを考えたいと思っております。
これで、ランドデザインについての説明を終わります。
資料の3-2から3-4までは、各学校の令和6年度学校経営方針についてとなっております。
以上、誠に簡単な説明ではございますが、よろしくご承認賜りますようお願い申し上げます。

服部 建 会長

両校長先生からとても詳しくご説明いただきました。
承認にいたるまでに、私たち委員から質問や、意見を伝えていきたいと思います。
まず、私から1点、学校運営協議会の周知ということがあったので、その際の保護者の反応や理解度について聞きたいなと思っておりますので、そこから教えていただけますか。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

高槻小学校では、6月1日に参観がございました。
引渡し訓練の際に保護者の方に体育館に集まっておいただき、私から学校教育目標、首席から学校運営協議会・コミュニティ・スクールについての説明をしております。
短い時間でしたが、たくさんの保護者の方に来ていただきました。
首席からは、「コミュニティ・スクールについてどれだけの人が知っておられますか」と、問いかけましたが、手を挙げてくださった方は、残念ながらあまりいらっしゃらなかったというのが実情です。
首席から、このような形で学校運営協議会を年に3回しているということについて丁寧に説明もしております。
そういう意味では、いい機会になったと思っております。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

昨年度の学校教育自己診断のアンケートで、半分強くらいの認知度だったと思っております。
そこは課題ということで、高槻小学校と同様に説明をさせていただくのですが、なかなか実態としては周知できていないかなと思います。
これからの活動の中で知っていただけたらと思っております。
高木委員と話をさせていただいている中で、保護者や地域の方にボランティアでたくさん学校に来ていただいて、その活動に来ていただいている中でも、そういった話をする中で、広めていきたいと思っております。

第一中学校 校長 安田 信彦

昨年度の学校教育自己診断の結果から、まだまだ周知ができていないと感じております。
中学校としましては、こういう組織があることということだけでなく、議論の中身、どのようなご意見をいただいたかというところをしっかりと保護者に理解していただいて協力していただくということを大事にしたいと考えておりますので、ここの議論の内容を、議事録等にしてホームページでアップするであるとか、まとめたものを配付させていただくとかという活動を地道に行いながら運営協議会の内容を周知していきたいと思っております。

服部 建 会長

高木委員いかがでしょうか。

高木 祐樹 委員

昨年、推進員としていろいろな活動する中で、大学生とのつながりが強くなりました。

学校教育の中に、地域の方や大学生との関わりをコーディネートしているところですが、教員の負担が上がりないように意識しないといけないと思っています。

いろいろやっていって労働時間が長くならないように、労働時間内でとどめることを意識しながらコーディネートしていきたいと思います。

いろいろ進めていく中で、学校運営協議会のことを知ってもらおうというところで、やっぱり実績はいるんだというのは非常に思います。

運営協議会からの提案で、こう変わったということをちゃんと保護者の方に知っていただかないと思います。ここからは質問です。

今はタブレットを活用する等 ICT の活用を進めていると思うのですが、正直なところ運営協議会での話の中ではその話をあまり聞くことがありません。

ICT は、家庭学習にも使えたり、自己診断、ICT を使った形でのテストとか、まるつけに終われている時間があつたりすることを簡素化することもそうですけど、簡素化するだけでなく、個人としての記録が残ることで、ということがわかってる、わかってないみたいなことが個人評価として残るのではないかと考えていて、苦手なものをちゃんと克服するような例えば個人ごとの学習の設定だったりとか得意なものは何かということ、これを保護者と共有することにも効果があるし、例えば保護者対応に追われてたりする部分でのことにも効果があつたりするんじゃないかと思っています。

ICT 活用をどのように考えられているかについてお話しいただければと思います。

第一中学校 校長 安田 信彦

GIGA スクールが始まって、当初は色々使ってみようというところが始まったのですが、最近は効果的に使うということに代わってきていると思っています。

いろいろ先生方が工夫しているのですが、例えば理科では先生がポータルサイトをつくって、そこにアクセスすれば、今まで学んだことを子どもたちが振り返ったり、教材がそこにあるので、子どもたちが自学自習に使うようなことに取り組んでいます。

また、面白い取組で言うと体育では、子どもたちに AI が質問し、それに3回程度こたえていくというやり取りを通して授業の振り返りをさせ、こういうところが課題なんだ、だからこうしていくんだみたいなことを気付かせたり、考えさせたりする取組をしています。

様々な形で先生が旧来のアナログが強いところはアナログで、デジタルがいいなと思うところはデジタルを使っています。

桃園小学校 校長 衆原 雅彦

おっしゃっていただいたとおり、学校では丸つけに時間がかかってしまっているのは1つの課題だと思います。

タブレットを使って、子どもたちに基礎基本の習得の部分で活用すれば、使えるのではないかと考えています。

例えば、夏休みなんかでもタブレットを使った宿題を出すことを考えています。

効率よくやっていくという意味で、生み出した時間で授業研究の時間に費やすためにも効果的なタブレットの使い方をしていきたいと思っています。

ただ、今は使えるアプリケーションが限定的ですので、これからさらに広がっていくのか、良いものがあるのかどう

かということを見つけていけないといけないのかなと思っています。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

どのような形で子どもたちに適切に使わせていくのかは、我々も勉強していかないといけないところだと思います。

授業の中では、例えばお互いの感想を交流する場面や、宿題の共有等の場面でタブレットを活用しています。子どもたちにどの場面でこういった力をつけていくのかということを考えながらタブレットを適切に使っていききたいと思います。

服部 建 会長

ICTの活用ですけれども、子どもたちの支援、サポートになる大きな武器でもあると同時に、先生がうまく持っていくための効率的な使い方という両面の話が出たような気がします。

石井 英真 委員

昨年度と比べても両小学校が共通にやろうとしてるところも見えてきますし、さらに言うと小学校と中学校の間でもつなげていくような共通の取組がかなり校区の中で共有されてるように見えます。

何より他の学校を比べてすごく充実している部分は、先生方の学びの機会がかなり体系的に組まれていることです。小学校・中学校で連動しながら、特に中学校でここまで手厚くていうふうなことはほぼ見ません。

これはすごいことだなと思っています。

逆にそれが先生方のご負担になっていないかどうかをお伺いしたい。

先生方の学びの場の充実について負担感等含めて小学校・中学校それぞれから伺わせていただきたいとことが一つです。

あと小学校から中学校へのカリキュラムの連動ということと言えますと、課題解決力が中学校で言うと総合、それで小学校で言うと児童会活動、小学校の総合が、協力と共助力、おそらくその小学校と中学校とで、総合に期待する内容とかそういったものが違うのかなというふうに思ったりするわけですが、この関係性を少し聞かせていただけたらというふうなこともあります。

中学校で、総合も元々地域と連携する土台があつてのクエストエデュケーションなんだと思うんですけども、カリキュラムの中に、これがどういう風に位置づけられるのかってあたりは気になることです。

総合は、スタンプラリーみたいなことになりがちなのがあつて、このプロジェクト、このプログラム、これこれこれって偉い人の話をたくさん聞きましたみたいな、最終的に点を線にしているんじゃないですかね。

これが見たら点が物語にどうなっていくかってあたりが総合とか探求やるときに一番ポイントになってくるかなと思います。

もう一つ言うと、パッケージを使うときは、先生が主体になってやられるわけです。

一つ間違えると、実際の主体が誰がやっているのかわからなくなったりすることがあったりする。

自分なりに掴めないというプログラムはなかなかうまく使いこなせないところがあると思うんで、その辺がどうなってるかなというあたりをお聞かせいただけたらと思います。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

授業研究の負担感なのですが、できるだけその負担を感じないようにするところで、校時の見直しをしてい

ます。

例えば、毎日やっていた掃除を週2日に限定して、15分程度プラス朝の時間を短縮し、放課後の時間を増やすというところと木曜日の6時間目が月に1回委員会があって、月に1回クラブがあって、何もない週があり、何もないときは保護者の方にも説明させてもらって、5時間目で子どもたちを帰らせて、生み出した6時間目で授業研究をするということのできるだけ負担感を減らすこと、余裕がある中で研究をするということを目指しています。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

研究班では、研究活動の時間を確保して、研究を進めるために、月に1回、木曜日の6時間目に研究の時間を取っています。

研究班は今年からの実施ですので、「困ったことを困ったと言える」ように、小グループで先生方がどんなことに困っているかの話ができたかと思っています。

学校としては、「当たり前のことを当たり前にしていく」ことを目標に掲げていますので、子どもたちに対しても教員に対しても、先生方がこれだったらできるだろうというスモールステップを踏みながら研究を進めていきたいと思います。

研究班では、課題があれば、先生方でその都度共有していこうというスタンスでいます。

総合については、困ったことがあれば地域の方に来ていただいて、地域の方にいろいろお願いをしたいと考えています。

こんな人に来てもらいたい、などを推進員の高木さんをお願いして、高槻小学校と桃園小学校と一緒にどんなことができるのかを相談させてもらいながら、どのような形で総合的な学習の時間を進めていくのかの検討のご協力をいただければ、総合の形が変わっていくのではと思います。

第一中学校 校長 安田 信彦

中学校ですけれども、まず研究については、中学校は教科担任制ですので、それぞれの先生方の専門性という中で、研究を進めたいと思っています。

だからテーマとしても、思考力・判断力・表現力という大きなテーマは決めています。細かいテーマについては、それぞれの先生の自律性と裁量の中で、自分でこういうことやっていきたいという設定の中で研究ができればいいなということです。

負担があると思いますので、少しでも授業のコマ数を減らしたり、授業の持ち方であるとか、会議の精選、行事の精選等をして、週あたりの持ち時間数を2年前に比べると2時間程度削減することができていますので、その中で研究を進めてもらえたらと思います。

研究の考え方としては、先生方は「見る・見られるの関係の中で育つ」とと思っています。

授業では、子どもは同じ説明を聞いてても全然理解の仕方が違うかったりとか、同じ資料を見ていても見ているところが違ったりしています。

それが違うからこそ、子どもたちは対話をして学びが深まっていくと思いますので、その子どもがどう理解しているかどう考えているのかっていうところをしっかりと見取る力っていうのが先生方にとってはとても大事だと思っていますので、一つの授業をみんなで見たりとか、お互いの授業を見合う中で、先生の指導技術だけでなく子どもがどう理解してるのかどう考えてるのかっていうところをできるだけみんなで考えながら、意見交換しながら先生方の学習者認知の力っていうのを高めていきたいと思っています。

総合学習については、昨年度取り組んだことがベースになっていますので、その中に使えるプログラムがあったので一部取り入れてみようとしてやっております。

特にクエストエデュケーションの中で面白いなと思ったのは、問いの立て方を学習する、どうやって自分で問いを立てたらよいのかというカードゲームがあったんですが、中学校の子どもたちは一斉指導の中で、問いを与えられてこたえていくという授業に慣れていますので、自分で疑問を持って、問いを立てることがなかなかできないので、ちょっとそのプログラムを取り入れてみて、総合学習のまず課題発見力をつけてみたいなと思っています。

倉橋 忠男 副会長

お聞きしたいのは、思考力・判断力・表現力の育成、生きた知識を獲得する授業づくりで、小学校の方も「分かったできた もっとやりたい」と思える授業づくりを掲げられているのですが、高校の教員として思うのは、思考力・判断力・表現力の評価をすることはとても大変で、以前から取り組んでいる小学校、中学校の先生には本当に感心しています。

一方で、ここ 10 年でグループワークをやらした時の質は、高校生に関しては変わってきていると思っています。10 年前は、話し合いが全然成立しなかったんですけども、最近は小学校、中学校のご指導の賜物だと思えますが、間違っていたとして自分の意見を言おうとしています。

質問は、思考力・判断力・表現力をどう評価に結びつけていくのか、保護者は結局評価をすごく気になさると思うので、何かこの評価のところで工夫されていることがあればお聞かせいただきたいなと思います。

第一中学校 校長 安田 信彦

今までだったら定期テストで、応用的な問題を出して、それがあっているかどうかで思考・判断・表現の評価をしていたけれども、今はパフォーマンス課題も取り入れながら、文章の記述内容をどう評価するのかを大事にしています。

そのためには評価規準とか、判断基準など、こういったことを書けていたら「b」評価であるといった基準をしっかりと教師の方が整理をしておく必要があると思っています。

難しい評価になりますので、教員 1 人だけでなく、評価会議で意見交換であるとか自分の評価と他の人の評価をすり合わせるとか、そういったことが今後必要になると話をしています。

これから中学校もそういったことについての研究をしていきたいと思っていますし、そういったことを研究のテーマにしている教員もいますので、先生同士で研究をしていけたらと思います。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

やはり思考力・判断力・表現力の評価をどうしていくのかは教員間で論議になる点です。

その場その場で評価することはなかなかできないのでテストだけではなく、いろいろな作品やノートの評価や、子どもたちがどのような表現をしているのかなど、日々の形成的評価やパフォーマンス評価などで評価していきます。それぞれの取組をどのように評価していくのか、それをいかに集めて子どもも保護者も納得できるような評価をしていくのかということだと思います。

ここについては、研究班や、研究授業で「どの場面でもどのように見取っていくのか」という評価方法を考えて、今後に生かしていきたいと思っています。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

単元学習指導評価計画を作成するときに、一人で考えるのではなく、評価委員会等を通してどういうふうにするのかという中で何をもち、どのタイミングでどう評価するのかということをしっかり具体的に共有しながら進めていくことが大事だと思います。

もう一つは、子どもたちにも同じように単元計画を渡し、先生たちは何をもち評価しているのかということと事前に、単元が始まる前に知らせておいて、見通しをもち学習に向かわせることが大事だと思います。

倉橋 忠男 副会長

前期中間テストの度数分布を見せてもらいました。

どの教科もすごく高くて、私は習熟度が高いなと感じていましたが、それは私が教員なので、そういう見方をしているだけで、他の保護者の方になるとテストが簡単すぎるのではないかなと思ってしまう方もあると思います。

ペーパーテストの意味やペーパーテスト以外でも評価しているところを保護者に分かってもらうということも一つ大切なことなのかなと思います。

中川 修一 委員

1年目なのでよくわからないところもあるのですが、経営方針をきちっと出されているのは良いことだと思います。方針があることで指導がぶれないのではないかなと思っています。

ICT 自体は管理に向いているのではないかなと思います。

生徒を管理するというと語弊のある言い方かもしれませんが、結局その子をどう育てるか、コーチング的な個別指導ですから、一人一人の子どもに対してどういうコーチングができていくかということが大事で、そのための経営方針がきちんとあるということに感動しています。

地域学校協働活動推進員がどれだけ重要なことかよく分かります。

兵頭 なつこ 委員

コミュニティ・スクールの取組について詳細なところまでお伝えいただいて、先生方が常に児童のことを考えてくださっているのだととても感動しました。

グランドデザインのところと言うと、大人の協働というところで、保護者・地域とともに子どもを育てる学校づくりとか地域と保護者で子どもを育てていくといった言葉がよく出てきたんですけど、一保護者の立場として、先生方が子どもや家庭に対してしてくださっていることはよく伝わってくるのですが、逆に学校側がコミュニティ・スクールという意味において、保護者・家庭にこういうことしてほしいですよっていうのはどういうことなのかなっていうのが、具体的にわからないので、学校側が保護者に対してどういうことをしてほしいというのがあればそれについて教えていただきたいと思います。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

地域の方・保護者の方に学校に来ていただくということのハードルを下げたいと思っています。

高木委員のからも周知の仕方等を考えていただいているところなのですが、とにかくいろんな形で、例えばボランティアという形も良いですし、わかりやすいところという掃除を手伝っていただけたらとか、とにかくまず学校に来ていただく、来ていただいて、掃除が終わってから子どもたちの学習の様子であるとか、休み時間の様子を見て

いただいてから帰るとか、来ていただくことで、大人同士のコミュニケーションも生まれると思いますし、私たち教職員と保護者の方、地域の方とその機会にお話をさせていただくというところで、地域のつながり、教職員とのつながりが広がっていくのかなと思っています。

ですので、何か「来ていただけますか」という募集があった時に、どんどん来ていただきたいと思います。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

小学校としては、地域や保護者の方からたくさんのことを学びたいと思っていますので、先ほど桃園からもあったように、できるだけ学校に足を運んでいただけるようにしたいと思っています。

この一中校区には、市役所があったり、公園があったり、またたくさんの人材もおられますので、子どもたちにとっては学ぶ機会が多くある恵まれた地域です。ぜひ多くの方々に学校来ていただき、またこちらからも足を運んで、学ぶ機会や発見の機会を作りたいと思います。

繰り返しになりますが、是非学校にお越しいただき、お力添えをいただければと思います。

第一中学校 校長 安田 信彦

中学校も基本的には同じですけれども、中学校は子どもが大人になっていくところなので、保護者というよりも地域の大人として学校の中で、活動、お手伝いしていただけたらと思います。

平成14年にすこやかネットっていうのがあって、地域の子どもは地域で育てる、それから子ども同士、子どもと大人、大人同士が顔と名前が一致する人間関係をつくろうということを平成14年以降取り組んできたのですが、最近、価値観とかライフスタイルが多様化したり、コロナによる活動の制限によって、地域社会のつながりが、薄くなってきて、子育てが団体戦からまた個人戦に戻っているような気がします。

子育て、教育は学校が行うものといった考え方であるとか、個人の責任で行うものといった考え方に変わってきているような気がします。

その結果、家庭の有利不利が子どもの将来まで影響するようになってきていますので、もう一度団体戦にするということで、この学校運営協議会、コミュニティ・スクールがきっかけになればと思っています。

授業は、もちろん学校の役割になりますが、体験的な活動であるとか、放課後の学習とか、土日の部活動なんかは家庭教育であるとか社会教育との関連が深いものなので、そういったところでも連携ができたらと思っています。

中村 光 委員

総合的な学習の時間における話で、一つ質問させていただこうと思います。

学校では、先生が問いを出して、それに子どもが答えるということに慣れているように思います。

今回、私が研修で授業させていただいた時にも国語の授業の中で、自分たちで問いを作って、物語を読み深めようという授業をしたのですが、子どもたちからは主体的に取り組む姿があまり見られませんでした。

総合の学習の時間の目標を見た時に、問いを自分で作るというのが掲げられています。

生徒たちが意欲をもって問いを作っていくことや生徒の意欲を上げるための工夫をされているところについて、お伺いしたいと思います。

第一中学校 校長 安田 信彦

一中の子どもたちは受け身になっている子どもたちが多いため、与えられた問いに対しては、しっかりと取り組ん

でいますが、自分で問いを立てるということはまだまだ力がついていないと思っております。

自ら問いを持って授業に臨むことができれば、学校の授業にも意欲的に取り組むことができるようになると思っています。

ずいぶん前ですけども、理科の授業の中で、環境をテーマに研究論文を作るという授業をしました。

15時間ぐらいの時間をかけて、それぞれが大気汚染であるとか水質汚染であるとか地震とかいろんなテーマを持って研究したのですが、その時は問いを立てる時間を十分に確保しました。

あとはやっぱり経験を積まないと、一朝一夕にはこの力がつくものではないですので、やはり何度も総合学習の時間を使いながら問いを立てる経験をさせるということが必要だと思います。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

対話をすることで、子どもたちが授業に見通しをもって、子どもたち自身で、考えを深め、学び合う授業の研究をしています。

問いを立てるということは、小学生では難しいことではありますが、まずはお互いに相手が言っていることを聞き、自分の思っていることを話すという対話することからだと思います。自分の考えと常に比べながら相手は何を言っているのか、自分と同じか違うかを考えたり、自分と違うから、こういう風に相手に伝えていこうなど、自分と比べながら相手と関係を作ろうとすることで問いが生まれてくるのではないかと考えています。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

総合的な学習の時間で、子どもたちのやる気が見えるのは、人との出会いであったり、場所との出会いです。

子どもたちは会ったことのない人と出会ったり、行ったことのない場所に行ったりしたらそれだけで目をキラキラ輝かせて取り組んでいます。

ただ、その中から問いを見出して、探究的な学びにつなげていくかということや、どのように総合的な学習の時間をデザインしていくのかというところは、これからじっくりと考えてやっていかないといけないところかなと思っています。

服部 建 会長

グランドデザインに関して、運営協議会として承認をしていきたいと思っています。

承認いただける方は、挙手いただけますか。

(全員挙手)

服部 建 会長

委員としては全員挙手ということで、承認いたしました。

次第4「今後の動き」について学校から説明をお願いします。

桃園小学校 校長 栗原 雅彦

学校運営協議会につきましては、年間3回を予定しております。

本日、承認いただきましたグランドデザインを基に教育活動を行っていき、第2回にはその進捗状況を説明いたし

ます。

年度末には、第 3 回運営協議会で、年間の取組の報告や学校自己評価の報告をさせていただく予定になっております。

なお第 2 回の学校評議会は 10 月を予定しております。

それまでにできれば委員の皆様にも各校の授業を参観していただく機会を設けたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、承認を頂いた学校運営や教育活動を進めていくために保護者や地域の皆様にも様々な応援をしていただきたいと考えております。

以上でございます。

服部 建 会長

予定されていた案件は以上ですが、学校から何かありますか。

高槻小学校 校長 八尾 洋美

本日は長時間にわたり第 1 回第一中学校区連携協定学校運営協議会にご参加いただき心よりお礼申し上げます。

昨年度に引き続き、本日も委員の皆様から様々なご意見を頂戴いたしました。

このご意見を受けて、これから一中校区で連携し、家庭・地域の皆様と協働しながら、学校教育の充実に向けて教育活動の活性化を図ってまいります。

年間3回の会議となりますが、今後も子どもたちの豊かな学び、健やかな成長のためにお力添えを賜りますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。

服部 建 会長

本日の案件はすべて終了いたしました。

これで第1回第一中学校区運営協議会を終わります。